熊本市
動植物園
Master
PLAN
【概要版】
For the 100th anniversary

第１章　はじめに

１．沿革

昭和4年(1929年)7月26日
　水前寺成趣園東側に「熊本動物園」として開園
昭和44年(1969年)7月1日
　現在地へ移転し、「熊本動物園（水辺動物園）」として開園
平成3年(1991年)4月1日
　都市緑化植物園と一体化し、現在の「動植物園」となる
平成19年度(2007年度)～平成25年度(2013年度)
　隣接する江津湖の水辺環境の特性を活かした生態展示を主眼とした再編整備に着手し、下記の施設を整備する
　・「モンキーアイランド」　・「サルたちの森」
　・「チンパンジー愛ランド」　・「ペンギン・カピバラエリア」
　・「ニホンザルエリア」
平成28年(2016年)4月14日、16日
　「平成28年熊本地震」が発生し、15日から臨時休園

「サルたちの森」

「ペンギン・カピバラエリア」

「ニホンザルエリア」

２．熊本地震からの復興

　熊本地震からの復旧にあたっては、早期の開園を目指し、少しづつ観覧エリア拡げながら部分開園を続けました。その間、多くの方のご支援やご声援を頂きながら、平成30年(2018年)12月22日の全面開園を迎えることができました。
　今後は、熊本地震からの復興という次なるステージを目指し、開園100周年に向け、新たなスタートを踏み出します。

（被災した園路）

（被災した子ども列車駅舎）

（全面開園オープニング式典）

３．課題

1.「熊本市動植物園再編整備計画」の見直し

・動物の生態観察の魅力向上、動物園と植物園の一体化などに取り組んだが、費用等の課題があり計画を中止した
⇒旧計画の方針を踏襲した新たな施設整備計画が必要

「モンキーアイランド」

「チンパンジー愛ランド」

「ペンギンエリア」

2. 江津湖との一体性の確保

・隣接する江津湖の恵まれた自然環境を活かせていない
⇒「水前寺江津湖公園利活用保全計画」との整合を図りつつ、江津湖の恵まれた自然環境の活用や一体性確保が必要

（南門からの江津湖の眺望）

（下江津湖沿いの湧水）

3. 施設の老朽化対策と魅力ある空間づくり

・約24.5haの敷地に84棟の建築物を有する
・昭和44年(1969年)に建てられたものもあり一部は老朽化
⇒多様な来園者ニーズに対応した快適な空間整備が必要

4. 収支状況の改善

・管理経費約10億円のうち、約7億円を一般財源で負担
⇒収支改善等による運営体制の強化が必要

第２章　熊本市動植物園のあるべき姿

４．計画策定の目的

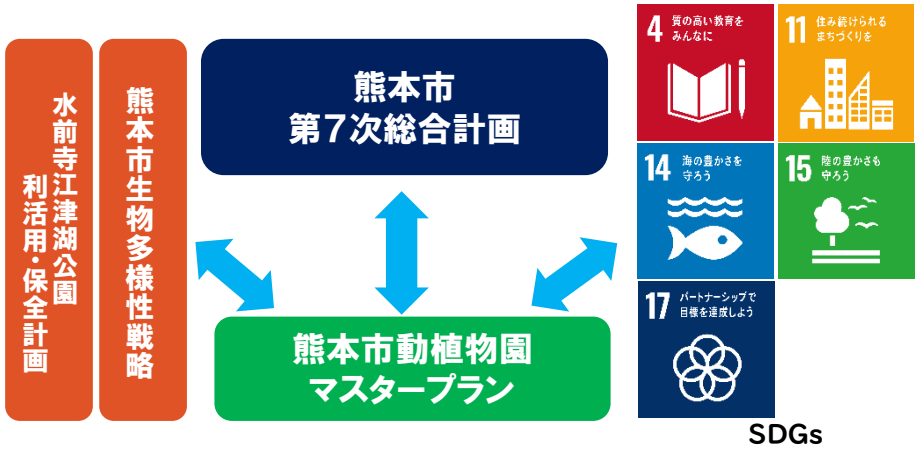
熊本地震の経験や第１章で述べた4つの課題を踏まえ、旧計画で掲げた動物の生態観察の魅力向上等の取り組みは踏襲し、来園者にとって更に魅力ある空間を創出し、集客力の向上により収支改善を図ることが重要です。

そこで、令和１１年度（2029年度）の開園１００周年に向け、市民や利用者の皆様に「愛され続ける」動植物園となるための、中長期的な施設整備及び運営の方針を策定します。

「熊本市動植物園マスタープラン」の策定

５．計画の位置づけ

熊本市第7次総合計画や関連計画と整合性を図ります。
また、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指します。



６．計画期間

令和2年度(2020年度)から令和１１年度(2029年度)の１０年間とします。

※将来を見据えたエリア計画(P4)のみ、長期的（20～30年後）な視点で定めることとします。

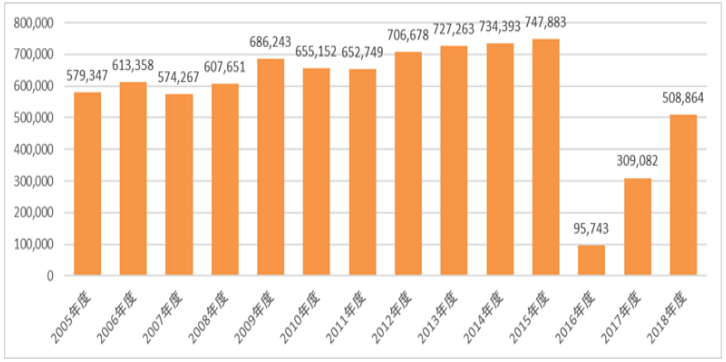
７．成果指標

成果指標を設定し、進捗管理や計画の見直しへ活用します。

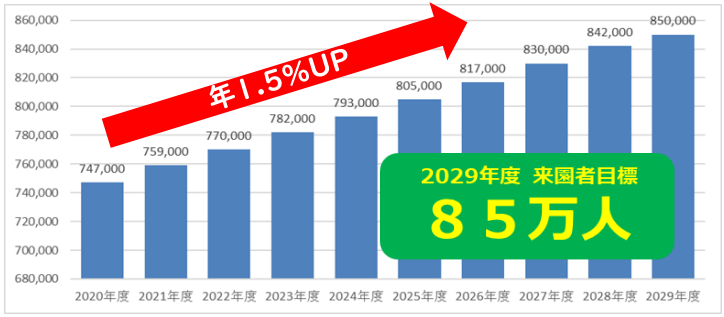
目指す来園者数

現在74万人 ⇒ 開園100周年に向け85万人を目指す

【これまでの来園者数】



【今後目指す来園者数】



８．マスタープランのコンセプトとテーマ

コンセプト

愛され続ける水辺の動植物園へ

コンセプトを達成するための4つのテーマを設定

テーマ1
驚きと新たな発見！いきものミュージアム

動植物の生息地を再現し、命の大切さや生き物の置かれる厳しい自然環境の現状を伝えます。

- ① 動植物の展示施設整備
- ② 種の保存・調査研究の推進
- ③ 自然環境教育の推進

テーマ2
江津湖との調和。水辺動植物園を再び

江津湖畔にある動植物園。江津湖畔のロケーションや豊かな自然環境を活かします。

- ① 「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」の設置 (短)
- ② 最高の景色を満喫できるビューポイントの設置 (短)
- ③ 江津湖畔を活かしたカフェを中心とした施設の導入
- ④ 江津湖畔の立地を活かした動植物展示

テーマ3
優しさと魅力あふれる動植物園づくり

来園者に優しく、魅力ある空間を提供します。

- ① 正面ゲートリニューアル (短)
- ② 来園者に優しい施設整備の推進 (短)
- ③ 来園者へ魅力あふれる空間の提供 (短)
- ④ 災害等の非常事態への対策

テーマ4
愛され続けるための運営体制の強化

愛される動植物園であり続けるために、経営面の課題を改善し、動植物園の運営体制を強化します。

- ① 歳入の確保
- ② 更なる歳出削減
- ③ ボランティア制度の見直し
- ④ 動物サポーター制度の見直し (短)

(短)…全国都市緑化くまもとフェア（令和3年度（2021年度））までに取り組むもの

テーマ1
驚きと新たな発見！いきものミュージアム

将来を見据えたエリア計画

・旧計画で取り組んだ、動物園と植物園の一体化などの考え方は踏襲しつつ、本計画では、生息地ごとの展示を基本にエリアの再編を行います。
・本計画は、令和11年度（2029年度）までの10年間の計画ですが、動植物の展示施設の整備には、ハード面に加え、今後の動植物の増減（他園や海外からの導入の可能性）を考慮するなど、長期的な視点での計画が必要です。
・そこで、本計画での施設整備方針を定めるにあたり、まずは、長期的（20～30年後）な将来を見据えたエリア計画を策定します。

テーマ1
驚きと新たな発見！いきものミュージアム

①　動植物の展示施設整備

開園100周年記念整備エリア

・「④アフリカの雄大な大地」エリアに広大なサバンナと低木林を再現し、生息環境に出来るだけ近づけます。
・サバンナの草原にいる動物の先に、江津湖を望める景観を創出します。

（イメージ）熊本県立第二高等学校 美術科 原 大知さん作

（イメージ）熊本県立第二高等学校 美術科 河津 若菜さん作

展示方法の改善

・体験型や、近くで観察できる展示を目指します。
・動植物を一体化した展示に取り組み、生息域を感じる展示を目指します。
・動物の福祉に配慮した展示に取り組みます。

（環境エンリッチメントの取り組み）

②　種の保存・調査研究の推進

・コレクションプランを策定し、動植物の収集・繁殖・増殖に取り組みます。
・絶滅の恐れのある動植物種の保存に取り組みます。
・専門知識を持つ職員の育成、動植物の調査研究を推進します。

③　自然環境教育の推進

・現在の動物資料館を、希少動植物の調査・研究を行うとともに、学習の場を提供する「いきもの学習センター」へ見直します。
・学習プログラムの整備を強化します。

テーマ2
江津湖との調和。水辺動植物園を再び

①　「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」の設置　短

・現在の動物資料館で展示している、江津湖の水生生物を展示します。
・湧水やホタルのビューポイント、スイゼンジノリ特別保護区など、自然に関する一体的な情報発信を行います。

②　最高の景色を満喫できるビューポイントの設置　短

・江津湖にもっとも近い南側エリアにおいて、ビューポイントをつくるため、デッキの設置や生垣見本園の整理を行います。
・野生に棲むいきものの観察ができるような水辺空間を創出します。

（写真）砦（とりで）遊具のデッキからの眺望

（写真）江津湖湖畔にある桜並木と生垣見本園

③　江津湖畔を活かしたカフェを中心とした施設の導入

・江津湖畔を活かした飲食施設の充実を図ります。
・公民連携の枠組みの中で、民設民営のカフェやレストランなどの施設の導入を検討します。

④　江津湖畔の立地を活かした動植物展示

・「開園100周年に向けた整備エリア」に、サバンナの草原にいる動物の先に江津湖を望める景観を創出します。（再掲）

テーマ3
優しさと魅力あふれる動植物園づくり

① 正面ゲートリニューアル　短

・動植物園のシンボルとして、正面ゲートのリニューアルを行います。
・リニューアルに際しては、サービス及び利便性向上を検討し、より優しく、魅力あふれる正面ゲートを目指します。

（写真）現在の正面ゲート

② 来園者に優しい施設整備の推進　短

・ベビーカーや車椅子、高齢者に優しい園路を整備します。
・夏の日差しが木陰で遮られた休憩スペースやベンチを設置します。
・誰もがわかりやすい案内サインへの改修を行います。
・洋式化をはじめ、誰もが使いやすいトイレへ改修します。

③ 来園者へ魅力あふれる空間の提供　短

・快適性・娯楽性を兼ね備えた体験型涼場づくりを行います。
・夜間開園に対応した園内照明の改修をします。
・様々な年代の来園者が楽しめる遊戯施設を導入します。

④ 災害等の非常事態への対策

・災害時避難誘導サインの導入、非常事態対策マニュアルの見直しや定期的な防災訓練などを行い、安心できる動植物園を構築します。

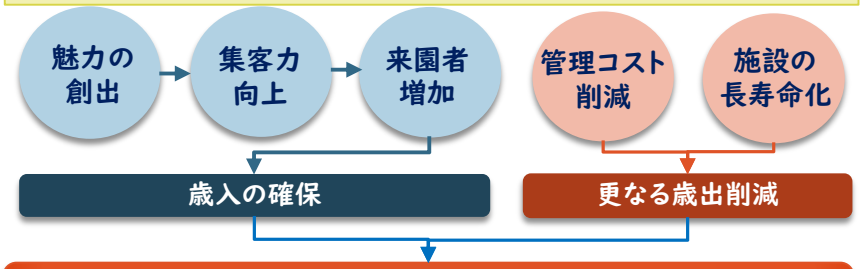
テーマ4
愛され続けるための運営体制の強化

① 歳入の確保

・これまで掲げた取り組みにより、更に魅力ある空間を創出することで、更なる集客力の向上と来園者数の増加を図ります。
・魅力ある遊戯施設の導入により使用料の増収を図ります。
・新たな来園者の獲得に向けた広報戦略やイベント編成を実施します。
・今後の社会経済情勢の変化等を踏まえ、適正な受益者負担の見直しに取り組みます。

② 更なる歳出削減

・燃料光熱水費をはじめとする、管理コストの削減に取り組みます。
・平成30年度(2018年度)に策定した長寿命化計画をもとに、施設の延命化や、ライフサイクルコストの低減と費用の平準化を図ります。
・PPPなどの民間活力の導入を検討します。



将来的に
管理経費の半分を入園料等の自主財源で賄うことを目標とします。

③ ボランティア制度の見直し

・イベント支援やハーブ園管理が中心の、現在のボランティア制度を見直し、動物ガイドや植物管理などの担い手育成と、市民参画機会の拡充に取り組みます。

④ 動物サポーター制度の見直し　短

・動物サポーター制度を見直し、施設整備に活用するための基金（「（仮称）熊本市動植物園100周年施設整備基金」）の設置を検討します。

全体スケジュール

実施年度	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
テーマ1. 驚きと 新たな発見! いきもの ミュージアム			開園100周年記念整備エリア							
	展示方法の改善									
	ｺﾚｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝの策定									
	調査・研究事業の推進									
	いきもの学習センターの整備（ソフト）				いきもの学習センターの整備（ハード）					
	学習プログラムの整備									
テーマ2. 江津湖との調和 水辺動植物園を再び	水辺のｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ設置									
	ビューポイントの設置									
	ｶﾌｪやﾚｽﾄﾗﾝ等の施設の導入									
			開園100周年記念整備エリア【再掲】							
	いきもの学習センターの整備（ソフト）【再掲】				いきもの学習センターの整備（ハード）【再掲】					
テーマ3. 優しさと 魅力あふれる 動植物園づくり	正面ゲート									
	園路の段差解消									
	休憩ｽﾍﾟｰｽ・ﾍﾞﾝﾁ設置									
	案内サイン改修									
	園内トイレ改修									
	体験型涼場づくり									
	園内夜間照明改修									
	新たな遊戯施設の導入									
	非常事態対策									
テーマ4. 持続可能な 動植物園の構築	歳入確保に向けた取り組み									
	歳出削減に向けた取り組み									
	ボランティア制度の見直し									
	動物サポーター見直し									

計画実現に向けた取り組みにおける整備目標（短期・３年以内）

【短期整備目標】
全国都市緑化くまもとフェア（令和3年度（2021年度））までに整備する内容

「(仮称)水辺のｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ」

体験型涼場づくり

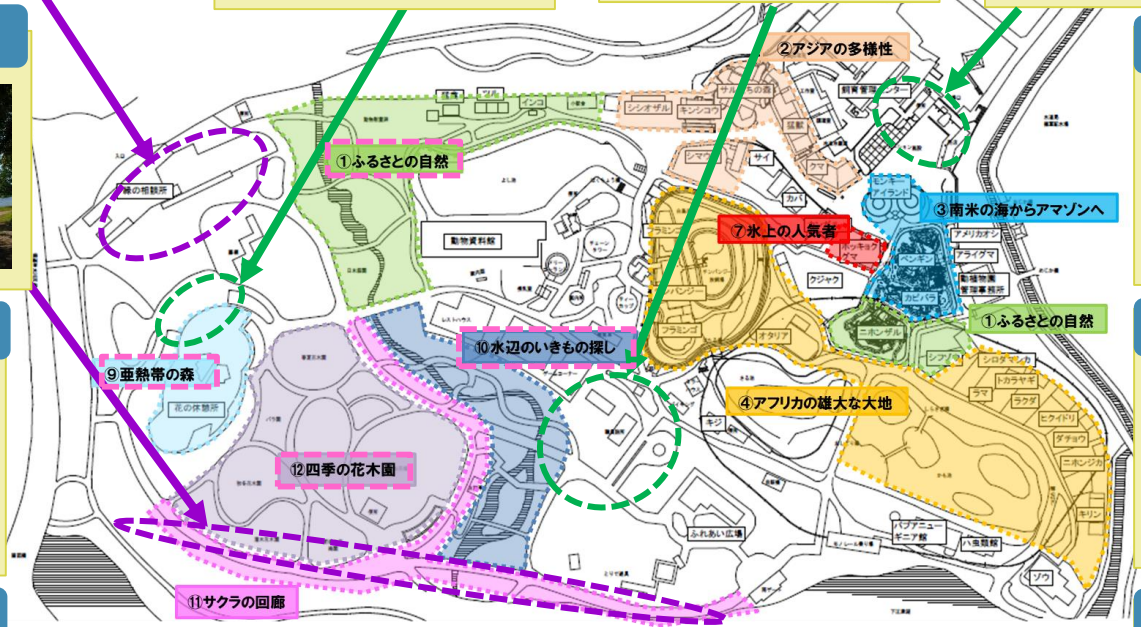
遊戯施設の導入

正面ゲートリニューアル

ビューポイントの設置

休憩ｽﾍﾟｰｽ等の設置

園路の段差解消



園内トイレ改修

案内サインの改修

夜間照明改修

展示方法の改善 （主なものを抜粋）

①ふるさとの自然
- ・国内に生息する動物の展示
- ・樹木の整理を実施
- ・四季を感じられる風景とする

⑨亜熱帯の森
- ・動物と植物を一体的に展示
- ・樹木を整理し移植を検討
- ・郷土の花を展示

⑩水辺のいきもの探し
- ・樹木を整理し明るい水辺空間の創出

⑫四季の花木園
- ・梅園、バラ園の展示エリアを拡張
- ・肥後六花コーナー設ける

計画実現に向けた取り組みにおける整備目標（中期・１０年以内）

【中期整備目標】
動植物園開園100周年(令和11年度(2029年度))までに整備する内容

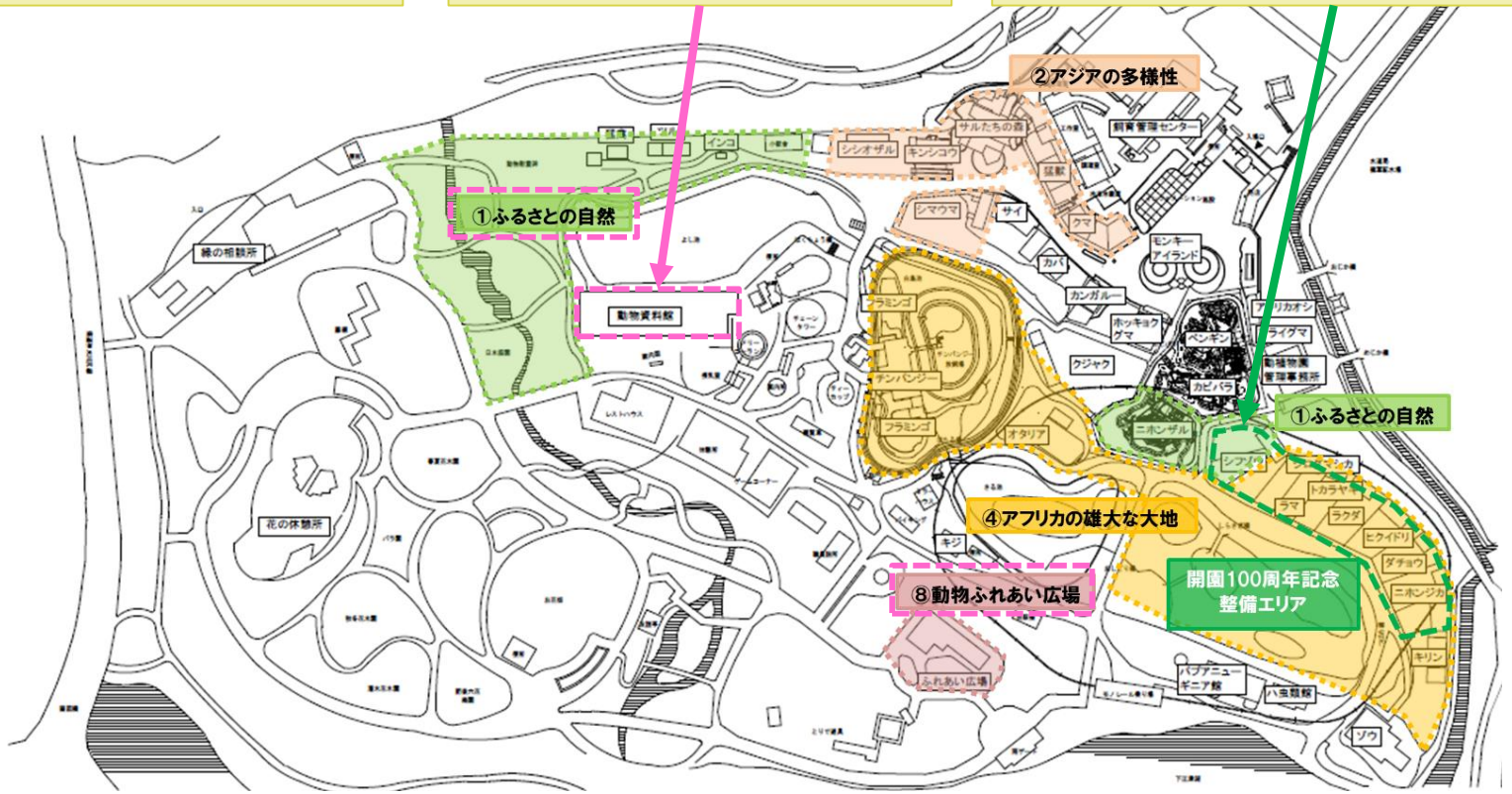
展示方法の改善(主なものを抜粋)

①ふるさとの自然

・棚田の風景をつくる
・田植え・稲刈りの体験を行えるようにする

⑧動物ふれあい広場

・あか牛の導入を検討する
・阿蘇の自然や熊本市との関わりを学べるようにする

いきもの学習センターの整備

開園100周年に向けた施設整備